

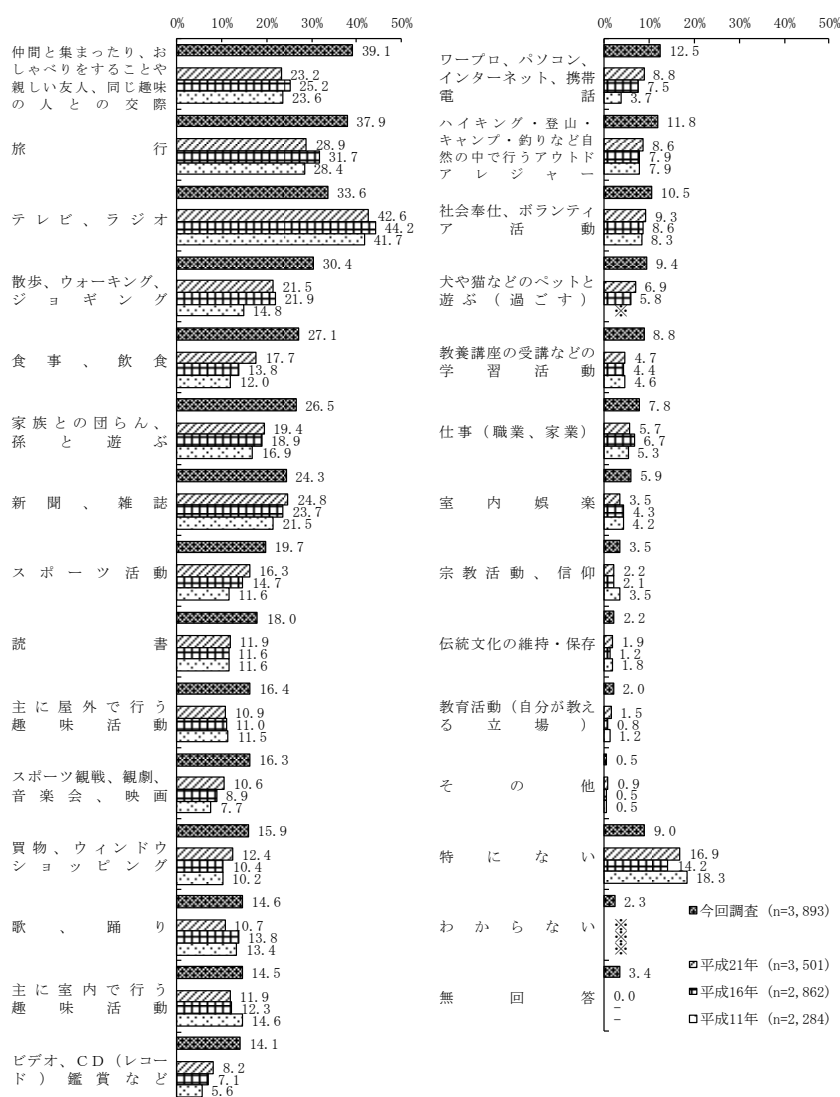
6. 日常的楽しみに関する事項

(1) 今後取り組んでみたい活動

・今後取り組んでみたい活動について、「仲間と集まったり、おしゃべりをする事や親しい友人、同じ趣味の人との交際」(39.1%)、「旅行」(37.9%)、「テレビ、ラジオ」(33.6%)となっており、前回調査と比べると、「仲間と集まったり、おしゃべりをする事や親しい友人、同じ趣味の人との交際」は15.9ポイント上昇している。

Q23「あなたは、スポーツ、趣味、文化活動などについて、今後どのような活動に力をいれて取り組んでみたいと思いますか。」(複数回答)

(時系列・総数)



注1) ※は調査時に選択肢がなく、データが存在しないもの。

注2) 平成21年までは、調査員による面接聴取法により調査しており、郵送配布・郵送回収法による今回調査と比較する場合は、調査方法の違いに注意が必要である。なお、今回調査では「特にない」が前回調査に比べ7.9ポイント低下しており、各回答の割合に影響を及ぼしている可能性があるため、比較結果の取り扱いには重ねて注意が必要である。

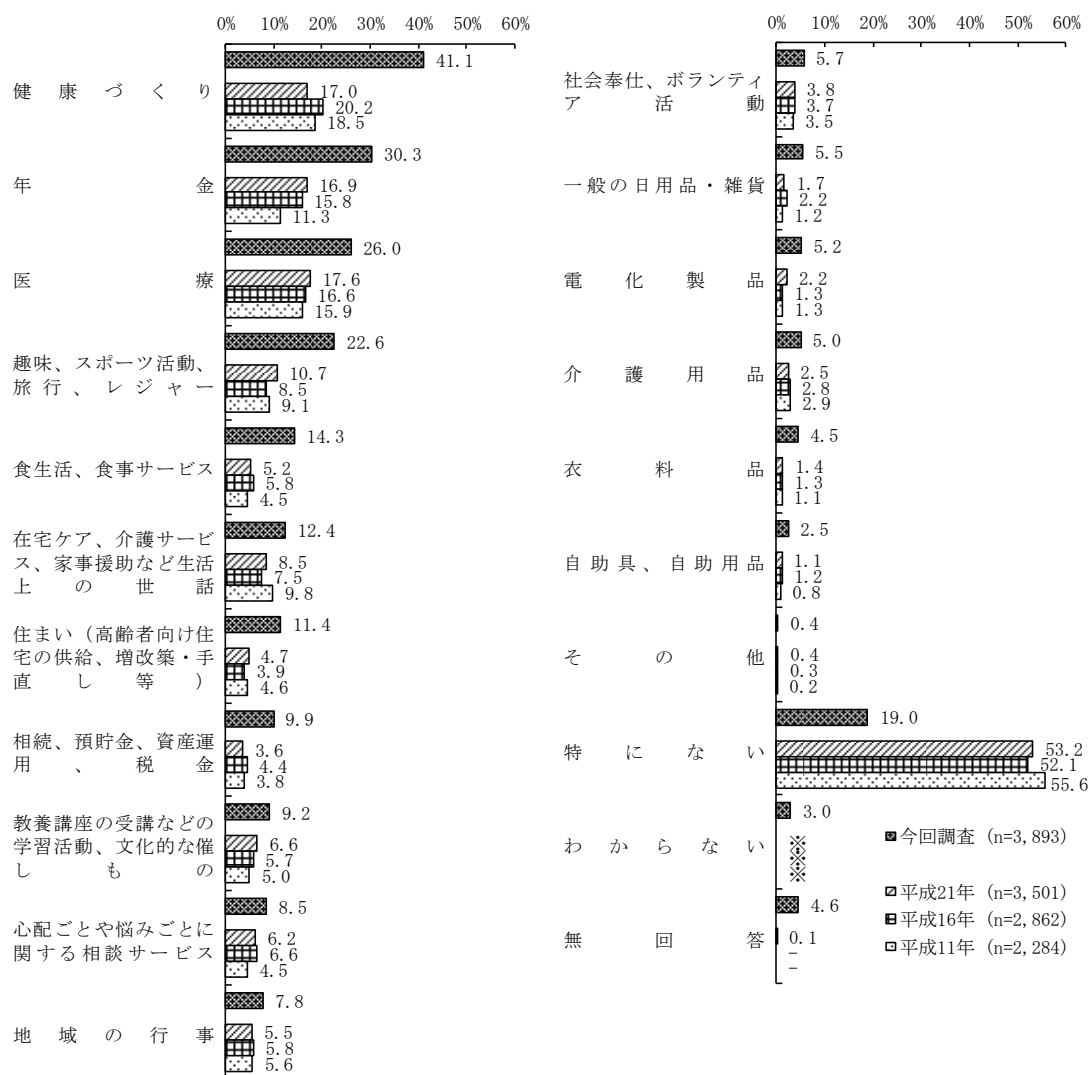
7. 日常生活情報に関する事項

(1) 欲しい日常生活情報

・日常生活に関する情報でもっと欲しい内容として、「健康づくり」(41.1%)が最も高く、次いで「年金」(30.3%)、「医療」(26.0%)となっている。なお、前回調査と比較すると「健康づくり」は24.1ポイント、「年金」は13.4ポイント上昇している。

Q24「日常生活に関する情報で、もっと欲しい内容がありますか。この中から、あてはまるものをいくつかあげてください。」(複数回答)

(時系列・総数)



注1) ※は調査時に選択肢がなく、データが存在しないもの。

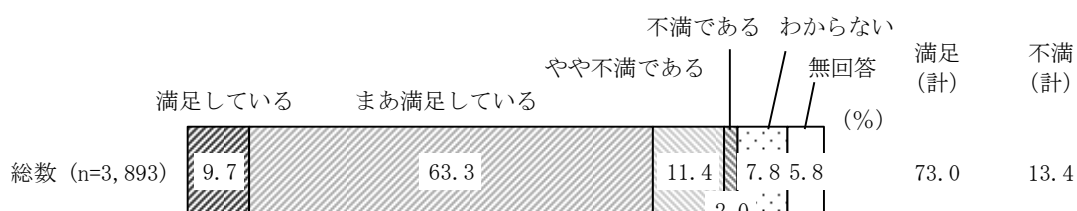
注) 平成21年までは、調査員による面接聴取法により調査しており、郵送配布・郵送回収法による今回調査と比較する場合は、調査方法の違いに注意が必要である。なお、今回調査では「特にない」が前回調査に比べ34.2ポイント低下しており、各回答の割合に影響を及ぼしている可能性があるため、比較結果の取り扱いには重ねて注意が必要である。

(2) 日常生活情報の満足度

- ・日常生活に関する情報に関する満足度について、7割以上が「満足（「満足している」「まあ満足している」の計）」としている（73.0%）。
- ・日常生活に関する情報に対する満足度について、「不満（「やや不満である」「不満である」の計）」の理由として、半数が「どの情報が信頼できるかわからない」（50.5%）としている。

Q25「あなたは、日常生活に関する情報に満足していますか。」

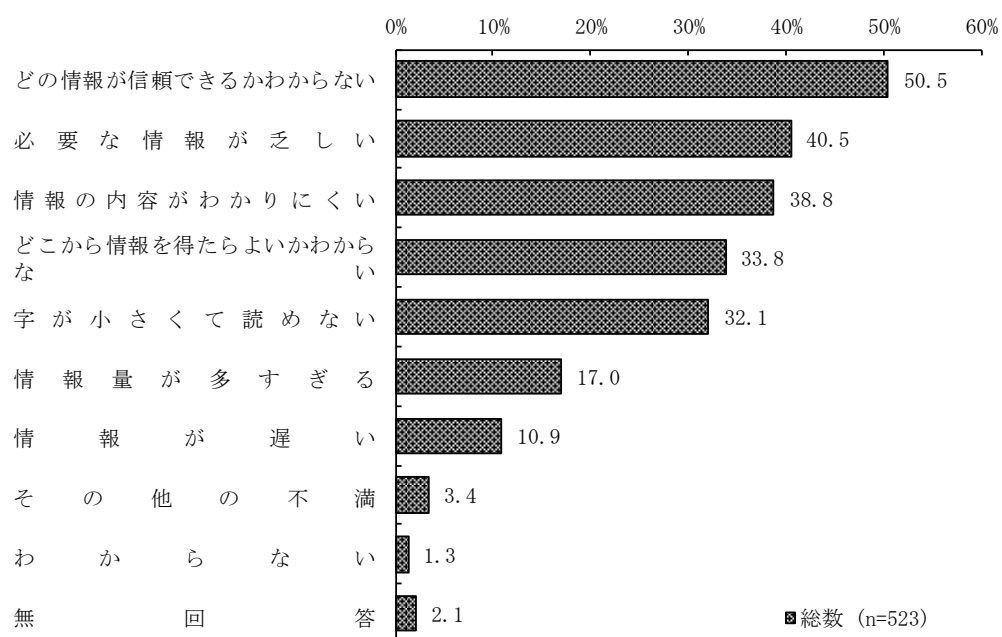
(平成26年度・総数)



[Q25で「やや不満である」「不満である」と回答した人に]

Q25-SQ1「どのような点が不満ですか。」（複数回答）

(平成26年度・該当数)

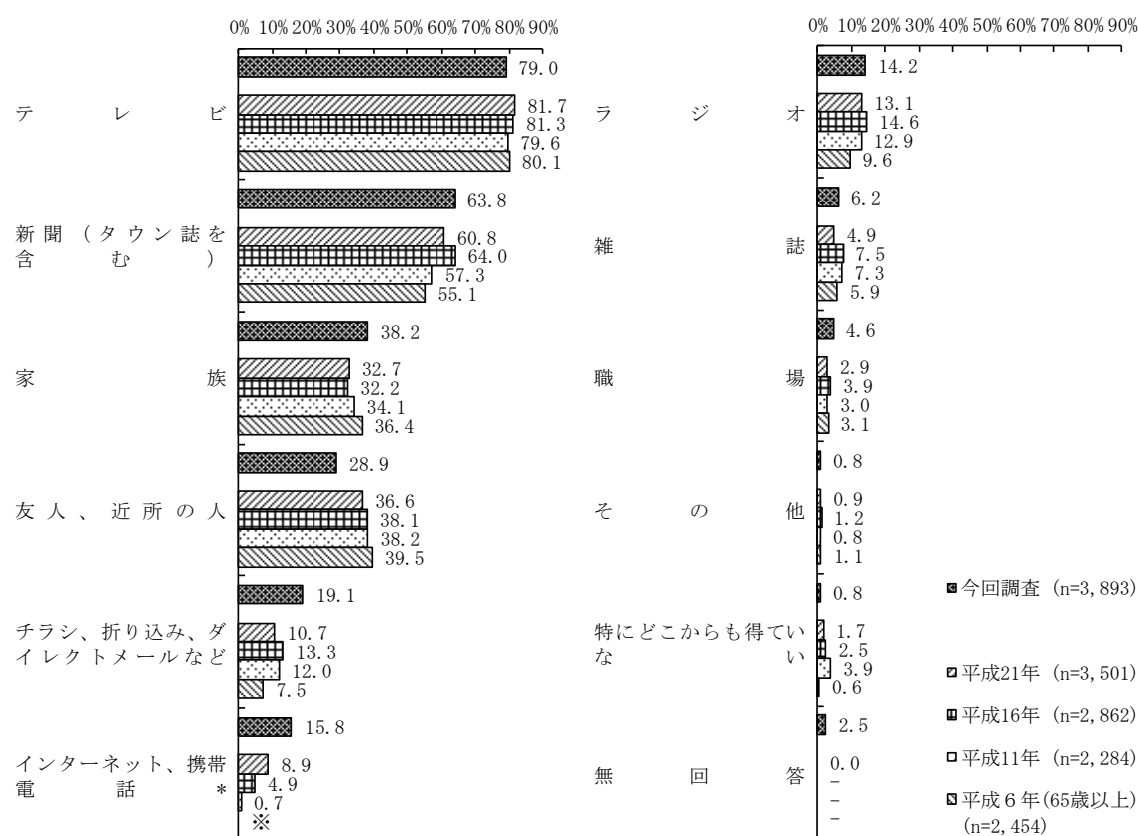


(3) 日常生活情報の情報源

- ・日常生活に関する情報をどこから得ているかについて、「テレビ」(79.0%)が最も高く、次いで「新聞(タウン誌を含む)」(63.8%)、「家族」(38.2%)となっている。過去の調査と比較すると、「インターネット、携帯電話」は増加傾向にある。
- ・総数で見た場合との乖離が大きなものについて、性別にみると、男性に比べて女性は、人的なつながりである「家族」(42.0%)、「友人、近所の人」(35.8%)が高くなっている。一方、女性に比べて男性は、「新聞(タウン誌を含む)」(68.5%)、「インターネット、携帯電話」(22.7%)が高くなっている。

Q25-SQ2 「あなたは、日常生活に関する情報をどこから得ていますか。」(複数回答)

(時系列・総数)

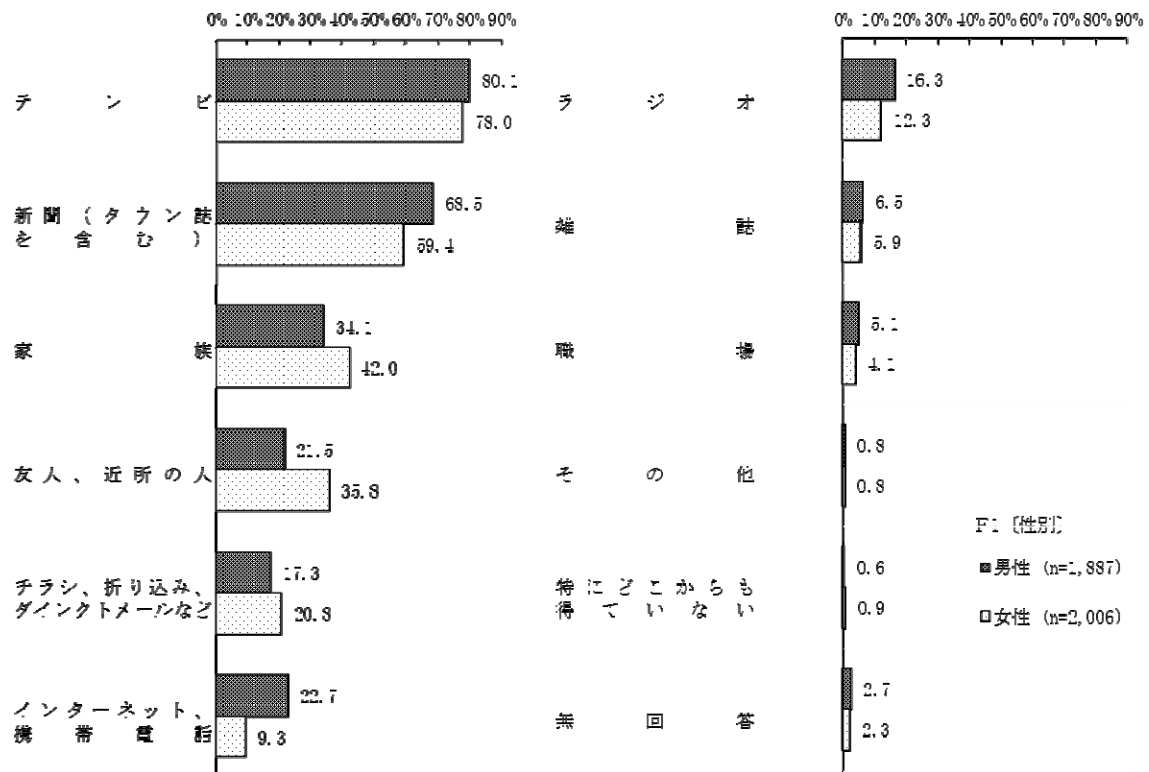


注1) ※は調査時に選択肢がなく、データが存在しないもの。

注2) *は、平成11年時は「インターネット、パソコン通信」。

注3) 平成21年までは、調査員による面接聴取法により調査しており、郵送配布・郵送回収法による今回調査と比較する場合は、調査方法の違いに注意が必要である。

(平成 26 年度・性別)

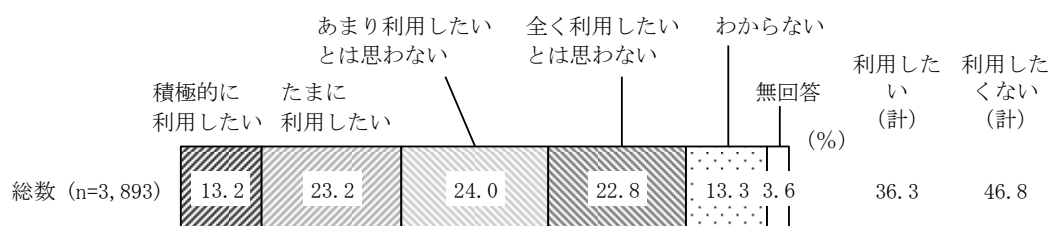


(4) ICTの活用の意向(Q26)と利用状況(Q26SQ)

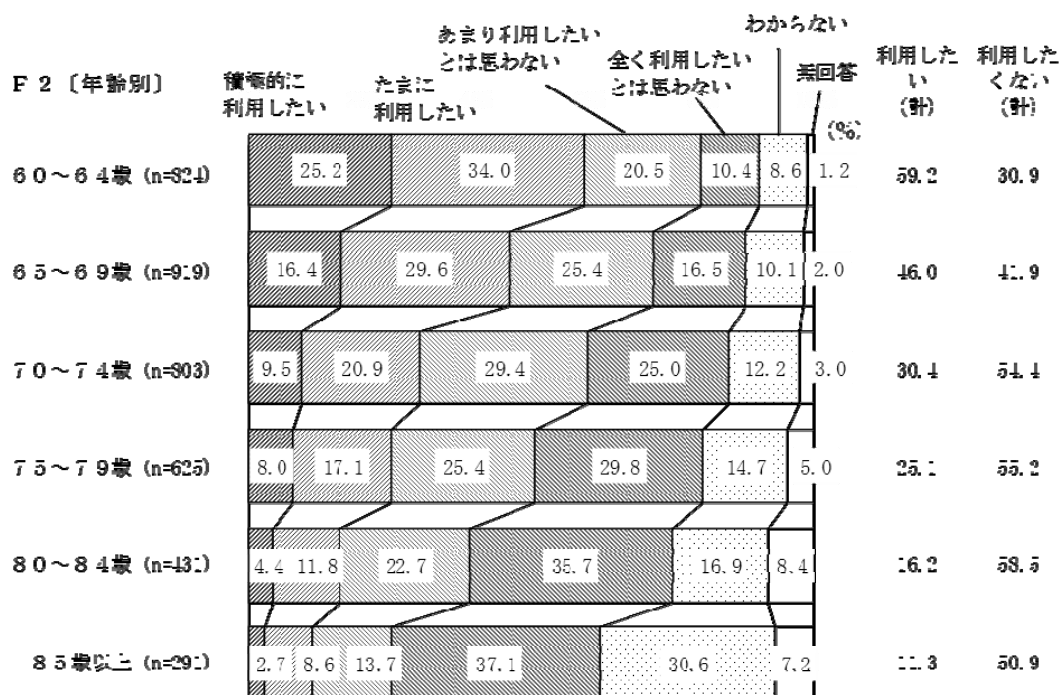
- ・インターネットやスマートフォンなどの情報端末の利用意向について、「利用したい(「積極的に利用したい」「たまに利用したい」の計)」36.3%、「利用したくない(「あまり利用したいとは思わない」「全く利用したいとは思わない」の計)」46.8%となっている。
- ・年齢別ではより若い年齢層が、利用したいとする割合が高い。
- ・インターネットやスマートフォンなどの情報端末の利用状況について、「利用している(「積極的に利用している」「たまに利用している」の計)」26.0%、「利用していない(「あまり利用していない」「全く利用していない」の計)」67.2%となっている。
- ・「利用していない」とした人の約2割に、利用意向がある。

Q26「今後、インターネットやスマートフォンなどの情報端末を、ショッピング、仕事、学習など、普段の生活で利用したいと思いますか。」

(平成26年度・総数)

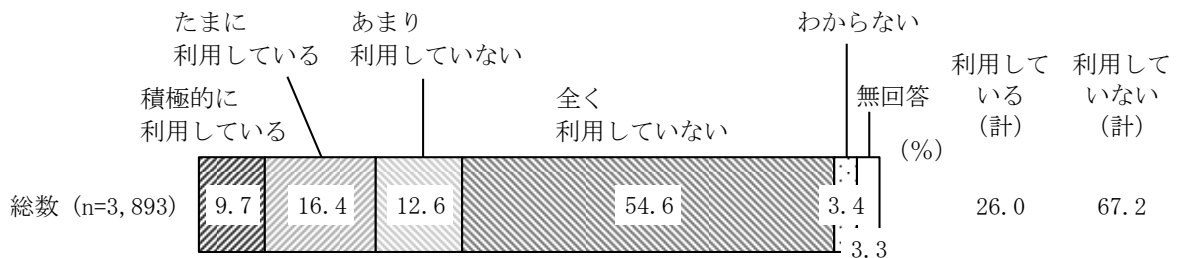


(平成26年度・年齢別)



Q26-SQ「現在は、インターネットやスマートフォンなどの情報端末を、ショッピング、仕事、学習など、普段の生活で利用していますか。」

(平成26年度・総数)



	総数	積極的に利用したい	たまに利用したい	あまり利用したいとは思わない	全く利用したいとは思わない	わからない	無回答	利用したい (計)	利用したくない (計)
[総数]	3,893	13.2	23.2	24.0	22.8	13.3	3.6	36.3	46.8
Q26SQ [ICTの利用状況]									
利用している (計)	1,014	44.9	46.4	7.1	0.5	0.5	0.6	91.3	7.6
積極的に利用している	376	86.4	10.4	2.4	-	-	0.8	96.8	2.4
たまに利用している	638	20.4	67.7	9.9	0.8	0.8	0.5	88.1	10.7
利用していない (計)	2,617	2.1	16.1	32.5	33.2	15.4	0.6	18.2	65.7
あまり利用していない	491	4.9	46.0	41.1	3.5	3.7	0.8	50.9	44.6
全く利用していない	2,126	1.5	9.2	30.5	40.1	18.2	0.6	10.6	70.6
わからない	134	1.5	6.7	6.7	6.0	78.4	0.7	8.2	12.7

8. その他

(1) 自分が高齢者だと感じるか

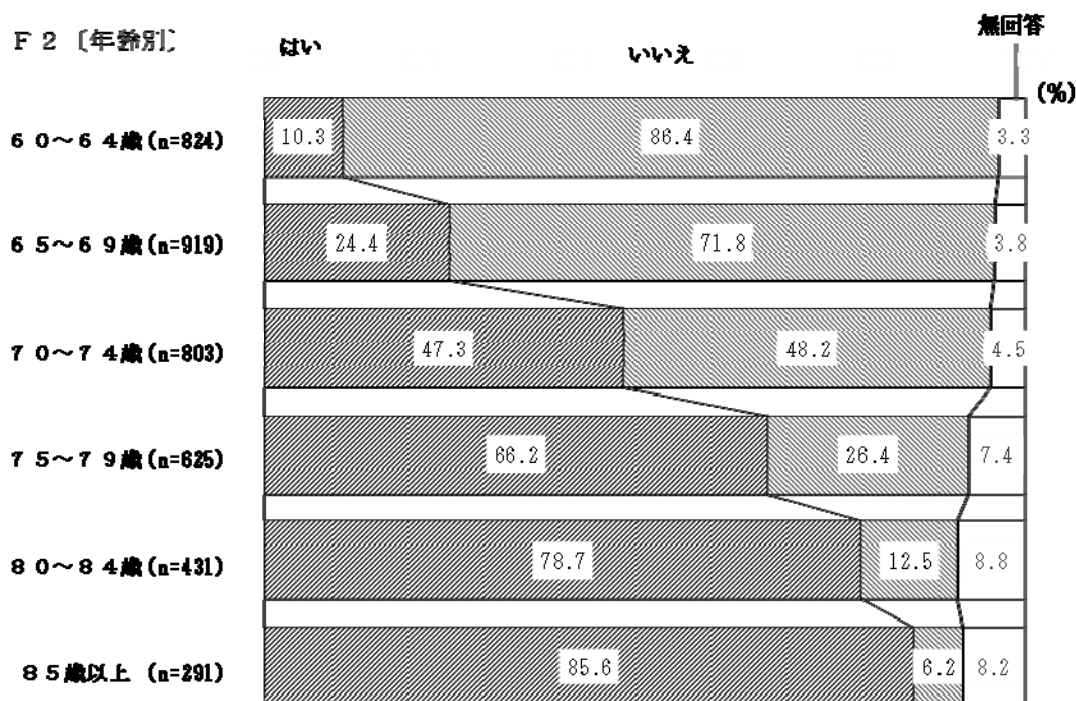
- ・自分を高齢者だと感じるかについて、5割以上（51.3%）が「いいえ」としているが、自分の年齢が高くなるほど高齢者だと感じる割合が増え、70～74歳で約5割、75～79歳で約7割が高齢者だと感じている。
- ・「親しくしている友人・仲間の程度」別では、親しい友人・仲間がたくさんいると感じているほど、高齢者だと感じない割合が高い。一方で、健康状態がよくないほど高齢者だと感じる割合が高い。

Q27 「あなたは、自分を高齢者だと感じていますか。」

(平成26年度・総数)

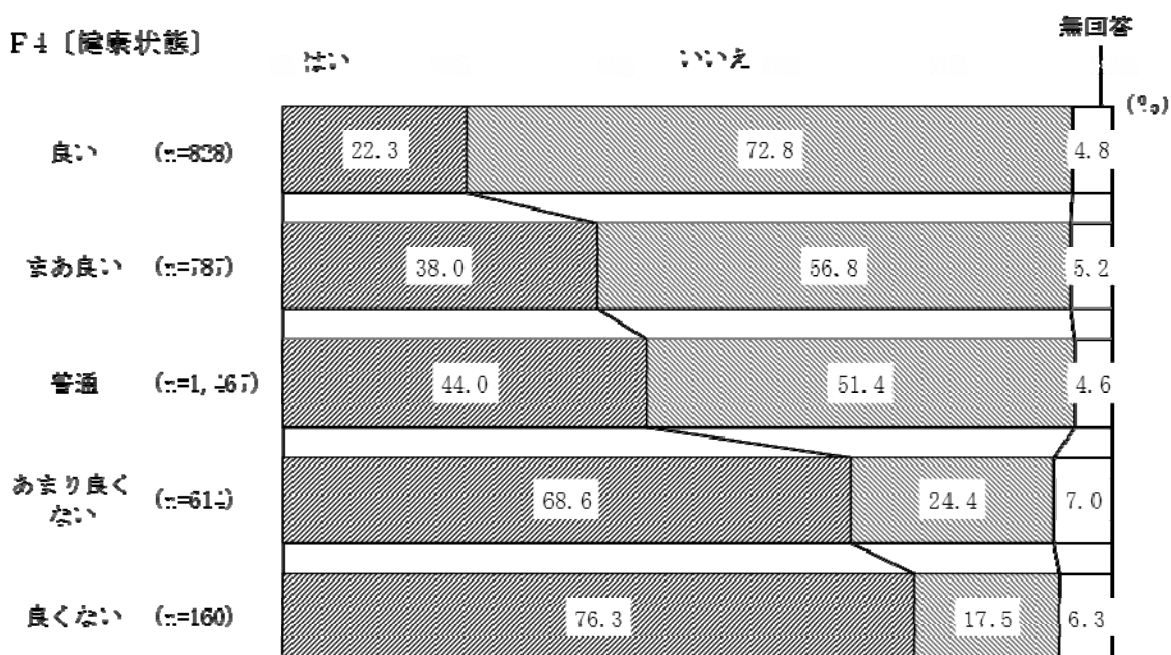


(平成26年度・年齢別)



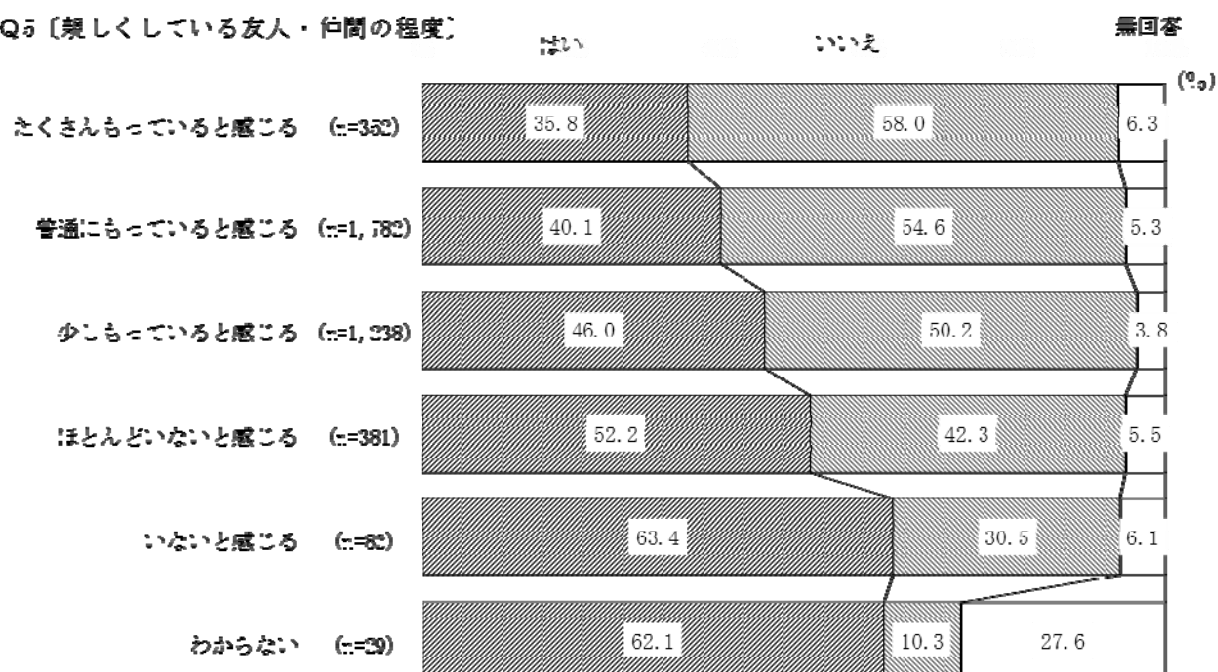
(平成26年度・健康状態別)

F4 [健康状態]



(平成26年度・親しい友人・仲間の程度別)

Q5 [親しくしている友人・仲間の程度]

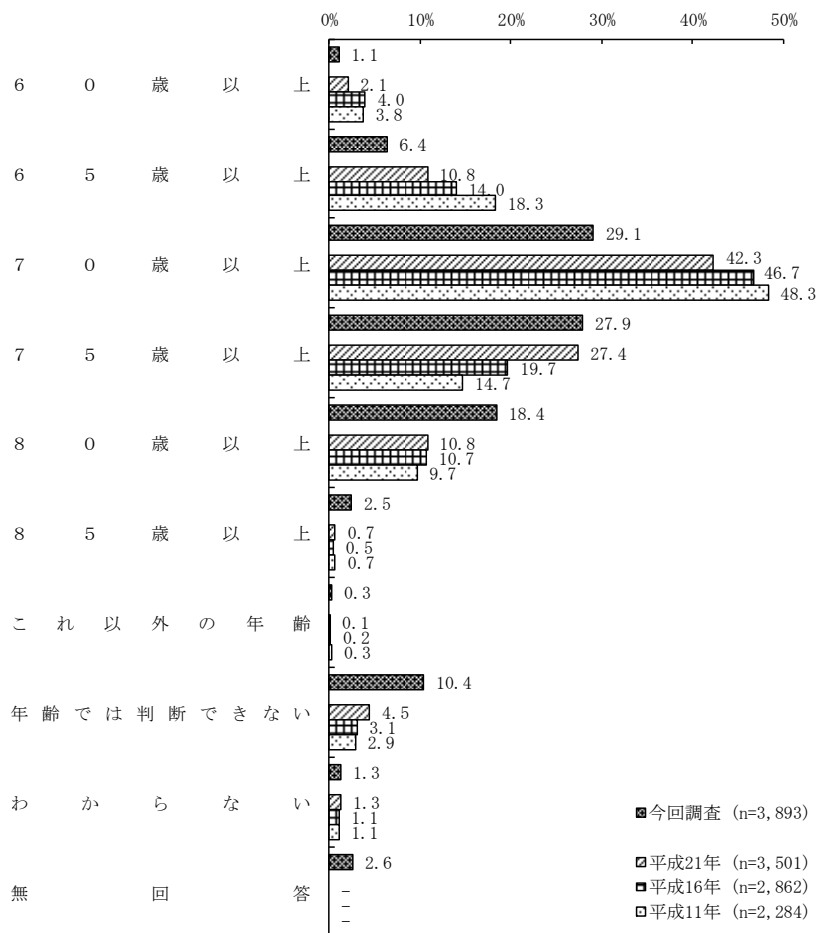


(2) 高齢者とは何歳以上か

・「高齢者」とは何歳以上かについて、「70歳以上」(29.1%)、「75歳以上」(27.9%)の割合が高く、60歳代(「60歳以上」(1.1%)、「65歳以上」(6.4%))とする割合は1割未満となっている。

Q28「あなたは、一般的に何歳頃から「高齢者」だと思いますか。」

(平成26年度・総数)



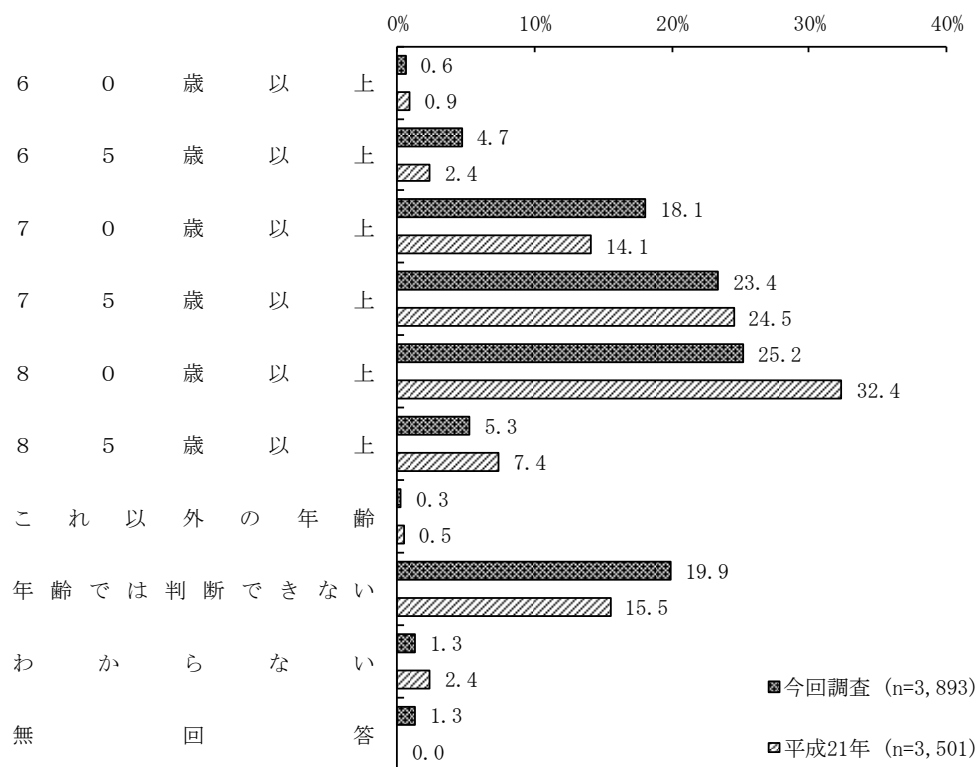
注) 平成21年までは、調査員による面接聴取法により調査しており、郵送配布・郵送回収法による今回調査と比較する場合は、調査方法の違いに注意が必要である。

(3) 支えられるべき高齢者とは何歳以上か

・支えられるべき高齢者として、前回調査と比べ7.2ポイント低下したものの「80歳以上」が最も多く、「75歳以上」と「80歳以上」の区分で全体のおよそ半数を占めている。

Q29 「あなたは、一般的に支えられるべき高齢者とは何歳以上だと思いますか。」

(平成26年度・総数)



注) 平成21年までは、調査員による面接聴取法により調査しており、郵送配布・郵送回収法による今回調査と比較する場合は、調査方法の違いに注意が必要である。

以上